



論理パーティション分割の設定

- [論理パーティション分割の概要, 1 ページ](#)
- [論理パーティション設定タスク フロー, 1 ページ](#)
- [論理的なパーティション分割の連携動作と制約事項, 12 ページ](#)

論理パーティション分割の概要

論理パーティション分割を行うことで、発信の分離に関する規制上の要件を満たしながら、単一のシステムで PSTN コールと VoIP コールをサポートできます。たとえば、インドの規制上の制約の下では、外部の電話で送受信されるコールはすべて、ローカルまたは長距離のサービスプロバイダーに渡し、適切な電話料金で完全な接続を介して伝送される必要があります。発信者の場所や呼び出されている電話番号に応じて、コールを PSTN または VoIP ネットワークに適切にルーティングする単一の Unified Communications Manager クラスタを作成できます。

論理パーティション分割では、互いに通信可能な一連の VoIP デバイスを定義します。ユーザが PSTN に使用する回線や VoIP に使用する回線を覚えておく必要はありません。オフネット コールを行う電話のみ、PSTN ゲートウェイと通信できます。これは、2倍のインフラストラクチャコストをかけずに、2つのネットワークで VoIP コールと PSTN コールを個別に処理しているのと同じです。

論理パーティション設定タスク フロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Enable Logical Partitioning, (3 ページ)	

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	<p>地理位置情報の設定, (3 ページ) を行うには、次のサブタスクを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 地理位置情報の定義, (4 ページ) • 地理位置情報の割り当て, (4 ページ) • デフォルトの地理位置情報の設定, (5 ページ) 	地理位置情報を設定するのは、場所の定義とそのデバイスへの割り当ての2段階のプロセスです。また、クラスタ内の全デバイスが使用するデフォルトの場所を設定できます。
ステップ 3	論理パーティション分割のデフォルトポリシーの設定, (6 ページ)	地理位置情報または地理位置情報フィルタと関連付けられていないデバイスのデフォルトのポリシーを設定します。このポリシーを使用すると、これらのデバイス間の PSTN コールを許可または拒否できます。
ステップ 4	論理パーティショニングチェックを回避するためのデバイス設定, (6 ページ)	デバイスとデバイスプールをパーティショニングチェックから特に除外できます。
ステップ 5	<p>地理位置情報フィルタの設定, (7 ページ) を行うには、次のサブタスクを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • フィルタ ルールの定義, (8 ページ) • 地理位置情報フィルタの割り当て, (8 ページ) • デフォルトの地理位置情報フィルタの設定, (9 ページ) 	論理パーティショニングでは、場所に基づいて、各デバイスに一意的 ID を割り当てます。1 つのデバイスが別のデバイスをコールすると、コールを許可するかどうかと、ルートが適切であるかを判別するために、これらの ID を使用します。どのフィールドを使用してこの ID を作成するかを選択できます。たとえば、ビルディング内の部屋またはフロアに応じて異なるポリシーを適用できます。
ステップ 6	論理パーティションポリシーレコードの定義, (10 ページ)	地理位置情報中のコールを許可または拒否するための論理的なパーティショニングポリシーのセットを定義します。地理位置情報間のコールの続行が許可される前に、システムはこれらのポリシーに基づいて指定された地理位置情報間でコールが許可されていることを確認します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	ロケーション伝達の有効化, (11 ページ)	(任意) クラスタ間でデバイスに関する地理位置情報を通信するには、ロケーション配信を設定します。

Enable Logical Partitioning

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM の管理から、[システム (System)] > [エンタープライズ パラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。
 - ステップ 2 [論理パーティションを有効にする (Enable Logical Partitioning)] エンタープライズ パラメータのドロップダウン リストから [True] を選択します。
 - ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。
-

次の作業

[地理位置情報の定義, \(4 ページ\)](#)

地理位置情報の設定

地理位置情報を設定するのは、場所の定義とそのデバイスへの割り当ての2段階のプロセスです。また、クラスタ内の全デバイスが使用するデフォルトの場所を設定できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	地理位置情報の定義, (4 ページ)	地理位置情報を指定するには、地理的なロケーションを設定します。この情報は、デバイスを論理パーティション設定などの規制機能と関連付けるために使用されます。地理位置情報は、国内の規制など、ポリシーの判断で使用されます。
ステップ 2	地理位置情報の割り当て, (4 ページ)	デバイスまたはデバイス プールに地理位置情報を割り当てます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	デフォルトの地理位置情報の設定, (5 ページ)	このクラスタ内の全デバイスとデバイス プールにデフォルトの地理位置情報を指定します。

地理位置情報の定義

地理位置情報を指定するには、地理的なロケーションを設定します。この情報は、デバイスを論理パーティション設定などの規制機能と関連付けるために使用されます。地理位置情報は、国内の規制など、ポリシーの判断で使用されます。

はじめる前に

[Enable Logical Partitioning, \(3 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、[システム (System)] > [地理位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [地理位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
-

次の作業

[地理位置情報の割り当て, \(4 ページ\)](#)

地理位置情報の割り当て

デバイスまたはデバイス プールに地理位置情報を割り当てます。

はじめる前に

[地理位置情報の定義, \(4 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、次のいずれかのメニュー項目を選択します。
- [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]

- [デバイス (Device)]>[トランク (Trunk)]
- [デバイス (Device)]>[ゲートウェイ (Gateway)]
- [システム (System)]>[デバイス プール (Device Pool)]

ステップ 2 次のいずれかの作業を実行します。

- 既存のデバイスまたはデバイス プールの設定を変更するには、検索条件を入力して [検索 (Find)] をクリックし、結果のリストから既存のデバイスまたはデバイス プールを選択します。
- 新しいデバイスまたはデバイス プールを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。デバイスでは、必要に応じてデバイス タイプとプロトコルを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 3 [地理位置情報 (Geolocation)] ドロップダウンリストから、設定した地理位置情報を選択します。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

次の作業

[デフォルトの地理位置情報の設定, \(5 ページ\)](#)

デフォルトの地理位置情報の設定

このクラスタ内の全デバイスとデバイス プールにデフォルトの地理位置情報を指定します。

はじめる前に

[地理位置情報の割り当て, \(4 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、[システム (System)]>[エンタープライズ パラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。
 - ステップ 2** [デフォルトの地理位置情報 (Default Geolocation)] ドロップダウン リストから、設定した地理位置情報を選択します。デフォルト値は、[未指定 (Unspecified)] です。
 - ステップ 3** [保存 (Save)] をクリックします。
 - ステップ 4** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。
 - ステップ 5** (任意) 特定のデバイスまたはデバイス プールでこのデフォルトをオーバーライドする必要がある場合は、[デバイス設定 (Device Configuration)] または [デバイス プール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウのいずれかに値を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。
-

次の作業

[論理パーティション分割のデフォルト ポリシーの設定, \(6 ページ\)](#)

論理パーティション分割のデフォルト ポリシーの設定

地理位置情報または地理位置情報フィルタと関連付けられていないデバイスのデフォルトのポリシーを設定します。このポリシーを使用すると、これらのデバイス間の PSTN コールを許可または拒否できます。

はじめる前に

[デフォルトの地理位置情報の設定, \(5 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM の管理から、[コールルーティング (Call Routing)] > [論理パーティション分割ポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] を選択します。
 - ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - ステップ 3 [論理パーティション分割ポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
 - ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。
(注) 値の [許可 (Allow)] が含まれていたポリシーの値が、後で [拒否 (Deny)] に変更された場合、そのポリシーは [拒否 (Deny)] のままになります。逆も同様です。前に [拒否 (Deny)] に設定されていて、後で [許可 (Allow)] に変更されたポリシーは、[許可 (Allow)] になります。[Cisco 統合レポート (Cisco Unified Reporting)] > [地理位置情報ポリシー レポート (Geolocation Policy Report)] を利用して重複するポリシーを特定できます。
-

次の作業

[論理パーティショニング チェックを回避するためのデバイス設定, \(6 ページ\)](#)

論理パーティショニング チェックを回避するためのデバイス設定

デバイスとデバイスプールをパーティショニング チェックから特に除外できます。

はじめる前に

[論理パーティション分割のデフォルト ポリシーの設定, \(6 ページ\)](#)

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM の管理から、次のいずれかのメニュー項目を選択します。

- [デバイス (Device)]>[電話 (Phone)]
- [デバイス (Device)]>[トランク (Trunk)]
- [デバイス (Device)]>[ゲートウェイ (Gateway)]
- [システム (System)]>[デバイス プール (Device Pool)]

ステップ 2 次のいずれかの作業を実行します。

- 既存のデバイスまたはデバイス プールの設定を変更するには、検索条件を入力して [検索 (Find)] をクリックし、結果のリストから既存のデバイスまたはデバイス プールを選択します。
- 新しいデバイスまたはデバイス プールを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。デバイスについては、必要に応じてデバイスのタイプとプロトコルを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 3 [地理位置情報 (Geolocation)] ドロップダウンリストから、[未指定 (Unspecified)] を選択します。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

次の作業

[フィルタ ルールの定義, \(8 ページ\)](#)

地理位置情報フィルタの設定

論理パーティショニングでは、場所に基づいて、各デバイスに一意の ID を割り当てます。1 つのデバイスが別のデバイスをコールすると、コールを許可するかどうかと、ルートが適切であるかを判別するために、これらの ID を使用します。どのフィールドを使用してこの ID を作成するかを選択できます。たとえば、ビルディング内の部屋またはフロアに応じて異なるポリシーを適用できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	フィルタ ルールの定義, (8 ページ)	地理位置情報フィルタでは、地理位置情報の識別子を作成するためにどのフィールドを使用するかを指定できます。この機能を使用して、地理位置情報オブジェクトのサブセットでポリシーを決定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	地理位置情報フィルタの割り当て, (8 ページ)	
ステップ 3	デフォルトの地理位置情報フィルタの設定, (9 ページ)	クラスタのデフォルトの地理位置情報フィルタを指定するには、デフォルトの地理位置情報フィルタのエンタープライズパラメータを設定します。このパラメータが、地理位置情報フィルタと関連付けられていないすべてのデバイスおよびデバイスプールのデフォルトの地理位置情報フィルタの設定を決定します。

フィルタ ルールの定義

地理位置情報フィルタでは、地理位置情報の識別子を作成するためにどのフィールドを使用するかを指定できます。この機能を使用して、地理位置情報オブジェクトのサブセットでポリシーを決定します。

はじめる前に

[論理パーティショニング チェックを回避するためのデバイス設定, \(6 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM の管理から、[システム (System)]>[地理位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] の順に選択します。
 - ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - ステップ 3 [地理位置情報フィルタの設定 (Geolocation Filter Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
 - ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。
-

次の作業

[地理位置情報フィルタの割り当て, \(8 ページ\)](#)

地理位置情報フィルタの割り当て

はじめる前に

[フィルタ ルールの定義, \(8 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、次のいずれかのメニュー項目を選択します。
- [デバイス (Device)]>[電話 (Phone)]
 - [デバイス (Device)]>[トランク (Trunk)]
 - [デバイス (Device)]>[ゲートウェイ (Gateway)]
 - [システム (System)]>[デバイス プール (Device Pool)]
- ステップ 2** 次のいずれかの作業を実行します。
- 既存のデバイスまたはデバイス プールの設定を変更するには、検索条件を入力して [検索 (Find)] をクリックし、結果のリストから既存のデバイスまたはデバイス プールを選択します。
 - 新しいデバイスまたはデバイス プールを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。デバイスでは、必要に応じてデバイス タイプとプロトコルを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 3** [地理位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] ドロップダウンリストから、設定した地理位置情報フィルタを選択します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
-

次の作業

[デフォルトの地理位置情報フィルタの設定, \(9 ページ\)](#)

デフォルトの地理位置情報フィルタの設定

はじめる前に

[地理位置情報フィルタの割り当て, \(8 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、[システム (System)] > [エンタープライズ パラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。
- ステップ 2** [デフォルトの地理位置情報 (Default Geolocation)] ドロップダウンリストから、設定した地理位置情報を選択します。デフォルト値は、[未指定 (Unspecified)] です。
- ステップ 3** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 4** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。
- ステップ 5** (任意) 特定のデバイスまたはデバイス プールでこのデフォルトをオーバーライドする必要がある場合は、[デバイス設定 (Device Configuration)] または [デバイス プール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウのいずれかに地理位置情報フィルタのデフォルト値を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。
-

次の作業

[論理パーティションポリシー レコードの定義, \(10 ページ\)](#)

論理パーティションポリシー レコードの定義

地理位置情報中のコールを許可または拒否するための論理的なパーティショニング ポリシーのセットを定義します。地理位置情報間のコールの続行が許可される前に、システムはこれらのポリシーに基づいて指定された地理位置情報間でコールが許可されていることを確認します。

はじめる前に

[地理位置情報フィルタの設定, \(7 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、[コールルーティング (Call Routing)] > [論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] を選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかの作業を実行します。
- 既存の論理パーティションポリシーの設定を変更するには、検索条件を入力して[検索 (Find)] をクリックし、結果のリストから既存のパーティションポリシーを選択します。

- 新しい論理パーティション ポリシーを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ 3 [論理パーティション ポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] ウィンドウの各フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

次の作業

[ロケーション伝達の有効化, \(11 ページ\)](#)

ロケーション伝達の有効化

クラスタ間でデバイスに関する地理位置情報を通信するには、ロケーション配信を設定します。

はじめる前に

[論理パーティション ポリシー レコードの定義, \(10 ページ\)](#)

手順

ステップ 1 クラスタ間トランク (ICT) またはローカルクラスタの SIP トランクで [地理位置情報の送信 (Send Geolocation Information)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 2 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 3 ICT またはリモートクラスタの SIP トランクで [地理位置情報の送信 (Send Geolocation Information)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

論理的なパーティション分割の連携動作と制約事項

論理パーティショニングの連携動作

表 1: 論理パーティショニングの連携動作

機能	データのやり取り
アドホック会議、参加、複数ライン同時通話機能、コール転送、コール転送	<p>論理パーティションの処理は、次の状況で起こりません:</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての参加者は VoIP 電話です。 • 地理位置情報または地理位置情報フィルタ処理がデバイスに関連付けされていないとき。
割り込み、c割り込みおよびリモート再開	<p>論理パーティションの処理は、次の状況で起こりません:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 発信者と呼び出される者の両方のデバイスが VoIP 電話のとき、論理パーティション分割ポリシーの確認は無視されます。 • 割り込み/c割り込みの参加者に対して、論理パーティション分割ポリシーの確認はなく、論理パーティション分割拒否シナリオを防ぐことはできません。
Cisco Unified Mobility	<p>論理パーティションの処理は、次の状況で起こりません:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 地理位置情報または地理位置情報フィルタ処理は、含まれるデバイスに関連付けられません。 • デュアルモードの電話機を使用するとき、論理パーティション分割サポートはありません。
CTI の処理	<p>論理パーティションの処理は、次の状況で起こりません:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 地理位置情報または地理位置情報フィルタ処理がどのデバイスにも関連付けられていないとき、処理は発生しません。 • 含まれるすべてのデバイスで VoIP 電話が指定されると、処理は発生しません。

機能	データのやり取り
エクステンション モビリティ (Extension Mobility)	<p>論理パーティションの処理は、次の状況で起こりません:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 地理位置情報または地理位置情報フィルタ処理は、Cisco Extension Mobility にログインしている VoIP 電話とは関連付けられません。 • Cisco Extension Mobility にログインしている VoIP 電話は、VoIP 電話にコールを発信するか、または VoIP 電話からのコールを受信します。
ミーティング会議	<p>論理パーティションの処理は、次の状況で起こりません:</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての参加者が VoIP 電話のとき、処理は発生しません。 • 地理位置情報または地理位置情報フィルタ処理がデバイスと関連しないとき、そのデバイスではポリシー チェックは起こりません。
ルートリストとハントパイロット	<p>論理パーティションの処理は、次の状況で起こりません:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 発信元と着信側デバイスが VoIP 電話のときに処理は発生しません。 • すべてのデバイスは、地理位置情報と地理位置情報フィルタ処理の両方に関連付けられている必要があります。どのデバイスも地理位置情報と地理位置情報フィルタ処理に関連付けられていない場合、処理は発生しません。
共有回線	<p>論理パーティションの処理は、次の状況で起こりません:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 発信者と呼び出される者の両方のデバイスが VoIP 電話のとき、処理は発生しません。 • 地理位置情報または地理位置情報フィルタ処理がどのデバイスにも関連付けられていないと、処理は発生しません。

論理パーティショニングの制約事項

表 2: 論理パーティショニングの制約事項

制約事項	説明
割り込み/c 割り込み	<p>割り込み/c 割り込みは発生せず、コール インスタンスはドロップされます。</p> <p>c 割り込み/割り込みの参加者に対しては、論理パーティション分割ポリシーのチェックは行われず、論理パーティション分割が拒否されるシナリオを防ぐことはできません。</p>
BLF プレゼンス	論理パーティション分割ポリシーではBLFプレゼンス通知はチェックされません。
Cisco エクステンションモビリティ	Cisco Extension Mobility が異なる地理位置情報の電話にログインすると、ローカルルートグループの設定時に PSTN 発信コールが行われる場合があります。PSTN 着信コールは電話では受信されませんが、リオーダー音が聞こえます。
Cisco Unified MeetingPlace	このシステムでは、Cisco Unified MeetingPlace または Cisco Unified MeetingPlace Express が関与するコールに対する論理パーティショニング機能はサポートされません。
会議	<p>論理パーティション分割チェックは、会議チェーン内の会議全体の参加者ではサポートされません。</p> <p>たとえば、ミーティング会議およびアドホック チェーン会議には、論理パーティション分割が拒否された参加者が参加できます。</p>
H.225 ゲートキーパー制御のトランク	Cisco Unified Communications Manager が H.225 ゲートキーパー制御トランク経由で地理位置情報を伝えることはありません。
H.323 および MGCP ゲートウェイ	<p>Cisco Unified Communications Manager が H.323 または MGCP ゲートウェイに地理位置情報を伝えることはありません。</p> <p>SIP ゲートウェイへの通信は、SIP トランクのチェックボックスを介して無効にすることもできます。</p>
モビリティ携帯電話ピックアップ	<p>コールが携帯電話で応答された後で論理パーティション分割の否定処理が行われます。</p> <p>論理パーティション分割ポリシーのチェックは、携帯電話にコールが発信される前には行われません（基本 SNR コールで実行されるため）。携帯電話がコールに応答した後で、システムが論理パーティション分割ポリシーをチェックします。</p>

制約事項	説明
Q.SIG クラスタ間トランク	Q.SIG プロトコルを持つクラスタ間トランク (ICT) が、発信側または受信側デバイスの地理位置情報を伝えることは許可されていません。“地理位置情報の送信”のための ICT 設定は、Q.SIG トンネルプロトコルが選択されていると無効になります。
リオーダー音	論理パーティション分割ポリシーにより、接続コールがリリースされても IOS H.323 および SIP ゲートウェイではリオーダー音 (ファスト ビジー音) は鳴りません。
共有回線のアクティブ コール	制限された論理パーティション分割シナリオでは、機能によって共有回線コールを許可されたカテゴリに移動された場合でも、共有回線はコールの期間中はアクティブ コール情報をドロップします。
User Agent Server (ユーザーエージェント サーバ)	この地理位置情報を受け取る論理パーティション分割認識クラスタ内の論理パーティション分割ポリシー チェックは、ポリシーが拒否された場合にコールをキャンセルする可能性があります。

